

愛の形式

決着のつかない愛の
形式が絶えず重なり
複雑で何重にも
入り組む波動

20世紀の僕と君の
器官なき身体は
どのように生きて
どのように朽ち果てる

妄想と言えない愛の
形式が暗がりには浮び
緩んだ緊張の下
絡む掌

影絵

並木道を辿る
車輪を回し続け
激しい雨のしぶき
振り落として潜る

ガラスに写った私の顔
影絵のように見つめる私

光の乏しい穴ぐらに
やって来た暖かい海
おおい被さる日々の泡
濡れて尖った赤い紅

湿った砂が敷きつめられ
影絵のように見つめる私

空洞

暗い空気は生ぬるく
繰り返す自問自答
ちっぽけな空想に耽り
吹いて飛ぶような弱み

こそこそ隠れた慰めは
愚劣な姿を燻し出す

行き場のないような塊
身を横たえた夢話
怖れなき笑顔の奥に
見るも無惨な泥の川

いらだたしい空洞に
音はひとつも聴こえない

十月のブルース

縦と横の入り交じる
眩暈に揺られて
いつか二人は舟の上
波しぶきと強い海風
空間を巡る表現は
僕らの視覚に訴える

聴こえてくるざわめきが
どこかでヒュルヒュル笛の音
見晴らしのよい丘の上
頬を叩く現実は
理想を遠くへ押しやる
出口のないまま夜は更けて